令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『地域洗剤「石垣島、海と山を巡る洗剤」の普及を通して、八重山諸島全域で環境意識を高め、ローカルSDGs事業の創出に繋げる』

活動団体の活動地域　：沖縄県石垣市
活動団体名　：lagom（ラーゴム）
中間支援主体名　：コラコラ（coralcollabo）

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	**合同会社lagom**
活動地域	沖縄県石垣市

専門性・強み

＃がんこ本舗の技術提供を受けた独自の洗剤開発
＃石垣島の精油を使用した「地域洗剤」の展開
＃すすぎ不要、生分解性で環境にも家事にも優しい製品づくり
＃島内で製造行程の５割を担い、輸送にかかるCO2の排出量を抑制、脱炭素
＃環境意識のボトムアップ
＃生活必需品の地産地消、経済循環

団体概要

石垣島の植物由来成分を活用した生分解性洗剤の開発・製造・販売を行っていく。 石垣島の海を守るため（赤土流出防止のため）畑の周 りに植えられたグリーンベルト月桃を原料に使い、豊 かな地域資源を生かした商品を開発し、地域を活性化 させる事業として島に根ざしていく。 環境負荷を抑えた洗剤の普及活動として、日々必ず使 う洗剤というものを地産地消に変えることで、私たち の生活が島の自然環境に与える影響を少し考えてみる きっかけになることや、洗剤を通して地域での循環が 生まれる事を目指します。

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	**コラコラ（coralcollabo）**
活動地域	石垣島を含む八重山諸島全域

専門性・強み

＃「農」「飲食」「宿」「小売り」 「リラクゼーション」「マリンアクティビティ」の６部 門27事業者がローカル認証に参加
＃事業者自身でガイドライ ン作り
＃コミュニケーションの輪を広げ人と人との繋がりを軸に した環境保全を推し進める力
＃人々にライフスタイルの転換を促して、環境問題に先手を 打つ

団体概要

八重山ローカル認証である 「コラコラ認証」を普及する中で、陸域での人間による活動をどうすれば、海域と陸域両方の環境再生が叶うのかを知ってもらい、八重山諸島における自然環境全般の再生を目指します。環境負荷を生み出している当事者（事業者自身）が自分たちで海域への環境負荷を減らすためのガイドラインを考え、実践し、市民へのライフスタイ ルの転換を提案しています。人を含めた島に息づくあらゆる命が大切にされる経済循環を生み出すことを目指しています。

活動団体と地域の紹介

石垣島の植物由来成分を活用した生分解性洗剤の開発・製造・販売を行っていく。石垣島の海を守るため（赤土流出防止のため）畑の周りに植えられたグリーンベルト月桃を原料に使い、豊かな地域資源を生かした商品を開発し、地域を活性化させる事業として島に根ざしていく。環境負荷を抑えた洗剤の普及活動として、日々必ず使う洗剤というものを地産地消に変えることで、私たちの生活が島の自然環境に与える影響を少し考えてみるきっかけになることや、洗剤を通して地域での循環が生まれる事を目指します。

沖縄ソーシャル融資を受けた「agomの石鹸開沙氏（中）と沖縄公庫の神山弁氏（左）＝27日午後、登野城の「集うと憩う」店内

資源を大切に

・再付着防止材の働きで
すすぎが０～１回（※）でOK。
節水、節電、時短にも貢献します。

・すすぎ回数を減らして、お洋服にの
ダメージの軽減に。お洋服を長く大切に。

・柔軟剤不要、おしゃれ着洗剤不要、
これひとつでしっかりと洗えます。

・食器洗い、マルチクリーナー、
お家の洗剤をこれ一本に。

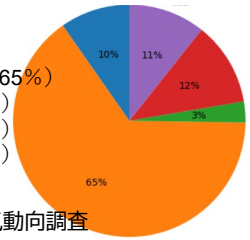
・さらに、災害時やキャンプなど、
水と電気が貴重な状況でもお洗濯ができます。

（※）ドラム式の場合は、元々水量が少なく洗剤も濃くなるためすすぎ１回をおすすめしています

地域の基礎情報

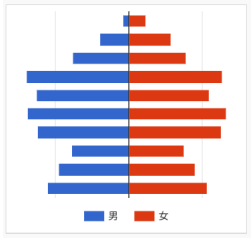
石垣市

・進学、就職などで離れるので、２０代の人口が少ない。
・サービス業が多い。
・耕地面積5270haで、市の土地の２３％。赤土が流れ出ている場所もまだ多い。
・



•サービス業：67社（約65％）
•製造業：12社（約12％）
•建設業：11社（約11％）
•小売業：10社（約10％）
•卸売業：3社（約3％）

令和5年度　石垣市景気動向調査



年齢(10歳階級) (C 2020)	
90 歳以上	802
80～89 歳	2,442
70～79 歳	3,897
60～69 歳	6,684
50～59 歳	5,924
40～49 歳	6,810
30～39 歳	6,279
20～29 歳	3,845
10～19 歳	4,668
0～9 歳	5,465

地域の課題

- 自給率が低い。
- リニア型経済で地域内で経済が回っておらず、経済が地域外に流出する構造になっている。
- 農業の担い手不足。人口が島の南部に集中していて、北西部の過疎。それに伴う学校の廃校。
- オーバーツーリズム

地域の自然資本、資源

- 島の伝統、文化の担い手が豊富。才能のある移住者が多い。
- 環境意識の高い移住者が多い。
- サトウキビの生産量が多い。お米の生産量が沖縄県１
- 植物が豊富。きれいな海。於茂登岳。魚介類。果物。生物多様性。石垣牛。地域ごとに特色がある。

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

外から運び込んだ資材で新しいものをつくるのでなく、すでに地域にある資源（例えば生育旺盛な植物や、サトウキビ産業、畜産業、林業、コメづくりから出る植物残渣など）の循環や、林業と連携した古民家再生など、すでに島にあるものをより有効に活用した事業を創出し、環境保全と地域経済の活性化が両立している姿。島で持続的な暮らしを繋いできた地元の方々から昔の暮らしの知恵を教えて頂き、それらを普及、継承、発展させていくことに経済が巡るような島にしたい。地元の方の知恵に移住者のアイデアも混ぜ合わせて、伝統と最先端が融合するユニークで持続可能な事業の創出が活発に行われ、関わるすべての人が豊かさを感じられるような地域経済が実現されている島。

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

すでにつながりのある事業者や、行政、地元の宿、主婦層、配送業、離島地域、北部地域の方々とともに、プラットフォームを構築していく。移住者と地元の人の経済が混ざり合うプラットフォームで、ここに参加すれば、横の繋がりで協力を得れたり、自分も何かに貢献できるという、ローカルSDGsの理念を基盤とした人間関係の再構築を担うプラットフォーム。プラットフォーム内で資源が循環したり、人材が循環したりする機能も担いたい。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 地域洗剤「石垣島、海と山と巡る洗剤」普及事業
- ベチバーや月桃などのグリーンベルトの植物から精油を作る事業
- 有機農作物や環境保全型商品の配送システム構築事業

■地域の現状と課題

- 自給率が低い。
- リニア型経済で地域内で経済が回っておらず、経済が地域外に流出する構造になっている。
- 農業の担い手不足。人口が島の南部に集中していて、北西部の過疎。それに伴う学校の廃校。
- オーバーツーリズム

（参考）ローカルSDGｓ事業の紹介

『月桃などのグリーンベルトや地域の余剰植物から蒸留水を作る』

【概要】
月桃、ヒバとレモングラスから抽出される蒸留水を、島洗剤の材料として利用した。
ヒバは、サバニ船を作る時に排出される産業廃棄物になるおがくずを利用できることになった。
月桃やヒバが、使用する蒸留水のメインになっている。

【段階】 実践
【実施時期】2025年7月～

【活用している自然資本・地域資源】
・化学肥料や農薬を使わずに農業を営む農家さん。
・赤土流出防止のために植えられている月桃など。
・サバニ船を作る時に出るヒバのおがくず。

【事業により生じたor 生じそうな成果】
・地域で余っている植物についての情報が入って来るようになった。
・産業廃棄物とそれにかかる費用が減る。
・蒸留した後の植物は、有機農家さんの畑で利用されるようになった。

今後の展望
・関係のできた自然栽培農家さんから、余っている植物をその都度提供してもらい、地産地消のサイクルを促進する。

『くるくる循環部』

【概要】
梱包資材、枯れ葉、傘、水筒など、余っているところから必要としているところへ循環させる活動。
それぞれの回収拠点の人が、何を集めるかを公表して、余っている人も、それを必要としている人も、その拠点に行くシステムを作る。

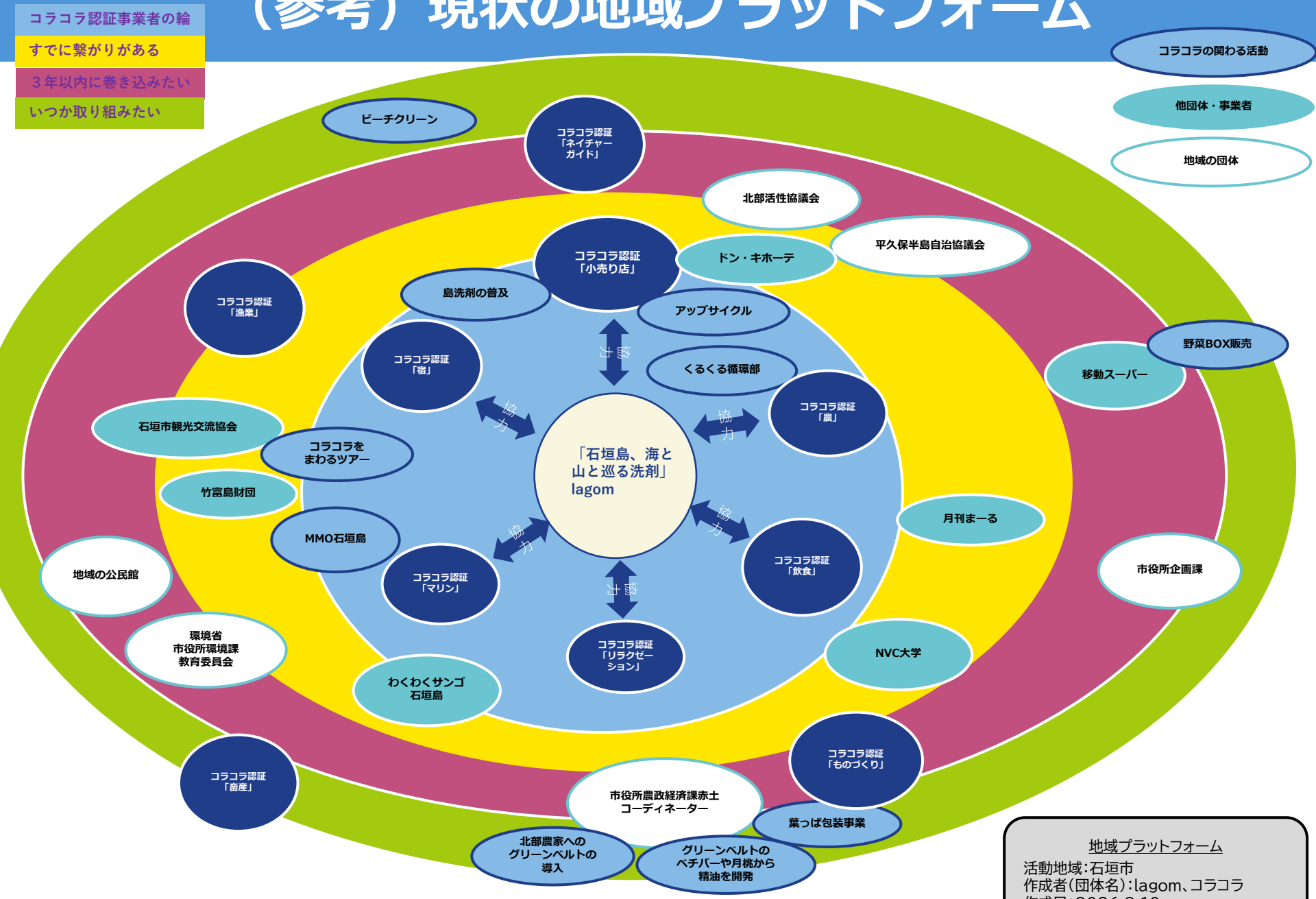
【段階】 試行・試験／実践
【実施時期】2025年

【活用している自然資本・地域資源】
・仕入れ時に出る資材のゴミ。
・廃棄される資材をもったいないと感じている住人や事業者。

【事業により生じたor 生じそうな成果】
・資材のゴミを減らす。新しく買うことで八重山に与えるインパクトを減らす。
・コミュニケーションが増える。

今後の展望
　今年度は、試験的にコラコラ認証事業者内で資材を回しているので、試行錯誤しながら、少しずつ事業者以外の家庭なども巻き込んで回していく。
　拠点が増えれば、その拠点の人のアイディアで回収する資材の種類も増えることを期待している。

（参考）現状の地域プラットフォーム

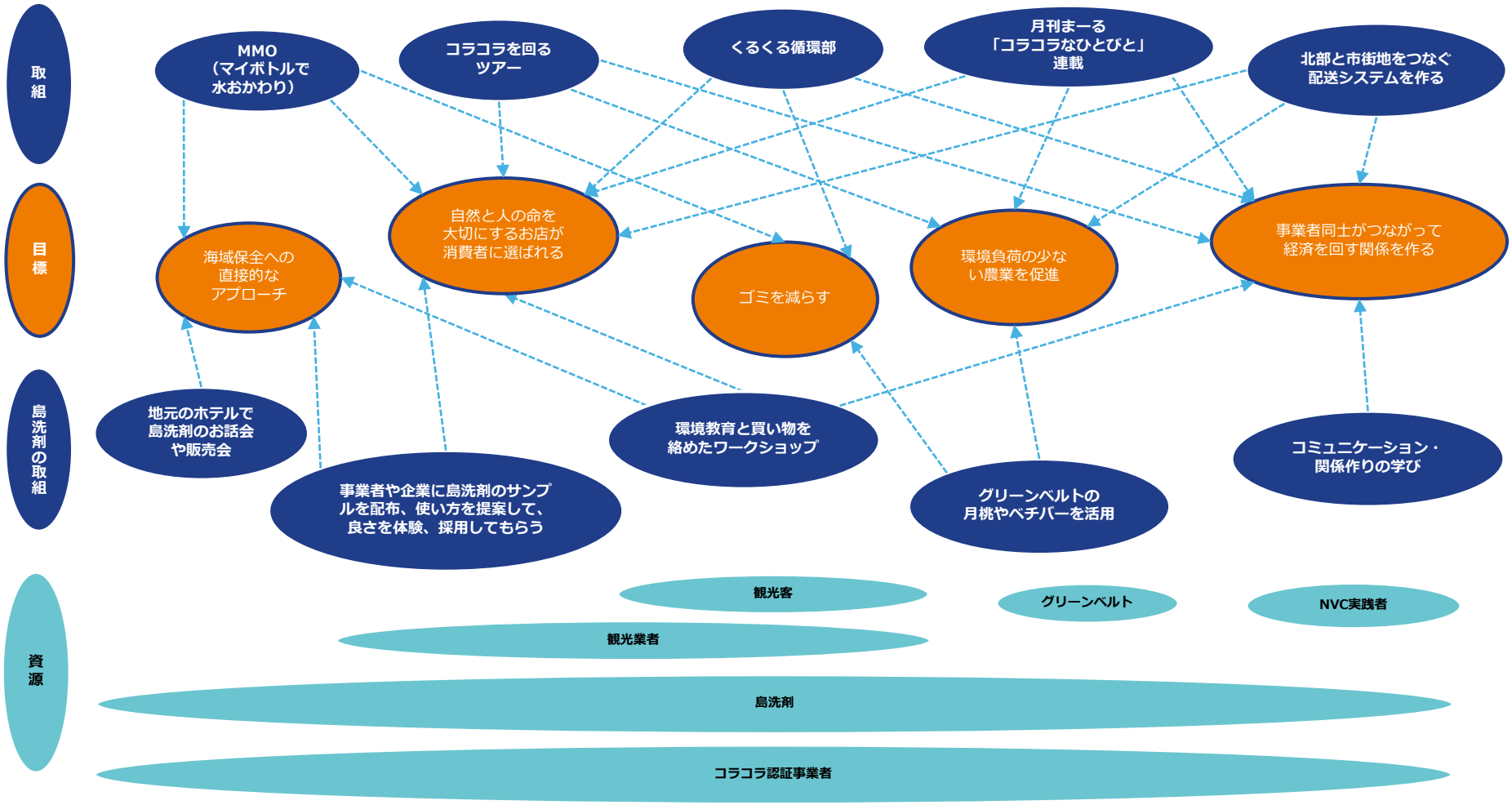


地域プラットフォーム

活動地域：石垣市
作成者(団体名)：lagom、コラコラ
作成日：2026,3,10

（参考）現時点のマンダラ

ありたい未来：自然と人の命を大切にする経済が地域で豊かに循環する



課題：畑から流出する赤土と化学肥料や農薬・家庭や事業所からの排水が川や海を汚す。
ゴミ処理の限界。循環型経済になっていない。食料も資源も自給率が低い。

地域版マンダラ
活動地域:石垣市
作成者(団体名):lagom、コラコラ
作成日:2026,3,10

３カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

八重山諸島の全島に、地域洗剤の取扱店がある。コラコラの認証事業者、応援会員、ファンとステークホルダーなどを中心に、地域洗剤の取り組みを通じて繋がりを深めた住民が自主的に大小のプロジェクトを進める。自然環境保全に関心がなかった方たちの関心度を上げて、その中からは活動の仲間になる方も出てくる。行政がこのような住民の活動と協働する価値を知り、積極的な気持ちを持つ。

■2026年度末の状態目標

八重山諸島の離島に数件、地域洗剤の取扱店がある。コラコラの認証事業者、応援会員、ファンとステークホルダーなどを中心に、地域洗剤の取り組みを通じて繋がりを深めた住民が自主的にコミュニケーションを取って、新しい取り組みを始める。それに関連する、デザインや印刷、他さまざまなの業務の注文とそのコミュニケーションを通して、地域内で経済圏を作ろうという空気を作る。ステークホルダーミーティングやイベントなどに行政に関係者として参加してもらい、協働できることを感じてもらう。

■2025年度末の成果と振り返り

「環境に優しい島洗剤を製造して広める」ことをアピールしたら、色々な団体が一緒に何かやりましょうと声をかけてくれて、実際にイベントを開催したり、フォーラムに登壇させてもらったりできたので、活動団体も、こういうことができるというイメージができたと思います。

支援としては、顔合わせの日程や場所の調整をしたり、イベントの準備を一緒にしたり、宿の予約をしたり、裏方のことをしていただけですが、一緒に行動する中で、コラコラのことをその場の人たちに知ってもらう時間をもらえて、lagomと集うと憩う、コラコラ、一緒に色々やってくれた方たち、イベント当日参加者の方たち、みんなにとって良いことしかなかったと感じています。

今年度は、先方から協働の声をかけてくれたので本当に良かったです。来年度からも、声をかけてもらえるような存在でいたいし、自分たちから一緒にやろうとお誘いしていきたいです。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低３つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと （ヒト/モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	**体制を整える**	2 年以内	・誰が何をやるか明確にして、助け合う（広報、調整、販売など） ・環境教育が専門の仲間とイベントを更にやっていく。	・環境教育専門の仲間 ・確実に島民へイベントを周知するための媒体
②	**仲間を探す**	2 年以内	・共通の関心がある人たちとコミュニケーションをとる。 ・経営、経済の分野が得意な人とつながる。	・島洗剤とコラコラを紹介する媒体や人。運営に入ってくれる人と、サポートの人、コラボする人など、幅広く。
③	**地域のビジョンを描く**	1 年以内	・島洗剤をはじめ、自然と人の命を大切にする具体的な行動について、島民に発信し、反応を得る。	・発信して広く島民に届く媒体とそれに関連する人材。 ・反応を得る方法。
④				

※継続参画調書の記載内容を踏まえ更新

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

『洗剤』という物理的に理解しやすい素材を通して、コラコラを活用してつながるコミュニティとその他の場でも、さらに新しいプロジェクトが自律的に生まれるように声をかけたり、つなげたりする立場。
個別に会って話をしたり、集まって意見や想いを出し合ったりする機会を、だれもが無理なく作れるようマネジメントができる。
話をする中で主体的にやりたいと言う人たちが出てくるような場。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題（見立て）	課題を解決するために必要と考える手段（打ち手）
①	島洗剤をコラコラ認証事業者と集うと憩うの顧客を中心に一般家庭にも広げることに注力したので、個人レベルで島洗剤を使用する人や事業者を増やすことができたが、コミュニティの内側にとどまる。	自分たちのコミュニティだけでなく広く八重山の人たちに知ってもらい、利用者を増やすために、マルシェなどで販売やワークショップなどをする。量販店の店頭で販売するなど、これまで接点がなかった住民に知ってもらう。
②	洗濯洗剤としてだけでなく、住民が食器洗いや掃除にも使うようになることで、環境負荷の高い洗剤の消費を減らしたい。	20倍に希釈してスプレーボトルに入れて、掃除や食器洗いに使う方法を広げる。コラコラ認証事業者や関わった事業者にサンプルを使ってもらって、広げてもらう。
③	島洗剤導入のコストの懸念が、初めから諦められて検討しない原因になるかもしれない。	３リットルの箱を３個購入すると１箱が付いてくるから２５％割引になることをアピールする。 他社製品との比較表などを準備する。

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

活動団体が明確なビジョンを描けるようサポートできるようになりたい。ビジョンの実現のためには他者との協力が必要不可欠なので、人間関係の構築や他者とのニーズのすり合わせをスムーズに行えるようサポートし、協働を実現できる存在に成長したい。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

団体として目指す「島の自然の回復と生活スタイルの転換、それによる自然と人との調和」の実現のため、八重山諸島でローカ ルSDGs事業の基本理念を広げる。地域の主体と繋がり、環境保全と経済活性の両立を軸にしたビジョンを展開することで、協働 の輪を広げられると考える。lagomが製造・販売を進める地域洗剤は、①生分解性なので海洋汚染を軽減できる。②3割の製造行 程を石垣島で行うため洗剤の輸送にかかるCO2排出量削減に貢献する。③グリーンベルトの月桃から作られる精油を香料として 利用することで間接的に赤土流出防止に貢献する。という３つの観点から環境保全に貢献する。この事業は、地域で経済が循環 するという観点からもローカルSDGｓ事業のモデルとなるもので、この地域洗剤の普及を通じて構築されるプラットフォームの 先には、新たなローカルＳＤＧｓ事業の創出が容易になると推測される。行政との連携は課題だが（環境保全に携わっているの は移住者が多く、そもそもの繋がりがないため信頼関係を築くのに時間がかかる）、本事業を通して行政の方との情報交換を密 にし市が描く都市計画の達成に貢献できるということをアピールする。３年後には委託事業を受け、活動団体と共に行政をサポ ートできるポジションにつきたい。そのポジションにつくことで地元の方からの信頼も得られ、受け入れてもらいやすくなる。 地元の方と移住者が、島にやさしい経済を通して混ざり合う地域密着型のプラットフォームを作り、八重山諸島ならではのユニ ークなローカルSDGs事業（地域資源を活用して環境・社会・経済を統合的に向上する事業）の創出を促すことに貢献していく。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール

	4月	5月	6 月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1 月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		コラコラ総会	西表島お話会	マルシェ	お話会	わくわくサンゴコラボイベント		ステークホルダーミーティング	マルシェ	わくわくサンゴコラボイベント		
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】	上記のイベントを通して、地域洗剤普及活動を石垣島全域にアピールしつつ、ローカルSDGs事業の主体を担えそうな方々に随時声かけしていく。ローカルSDG s 事業のアイデアだしを行ったり、ニーズやビジョンをすり合わせたり、時間をかけて関係性を築いていく。											
中間支援主体の支援・取組計画	・事業の主体を担えそうな人材とlagomとのミーティングの場を設定し進行役を努め、目的のある会議にする。互いのニーズがどこにあるのかを明確にするのを支援する。 ・行政とのミーティングを設定。											

備考（補足説明など必要な場合は記載）